

## Y03a 天文学のサポーターに対するアンケート調査報告

生田ちさと

宇宙に興味があるか、とアンケートで聞くと、多くの（我々の調査では約25%の割合）人が興味があると回答する。しかし、単に興味があることと、税金や寄付によって天文学や宇宙科学の研究活動を応援するというのは別の話である。天文学や宇宙科学の最先端研究は、多額の資金が必要となるいわゆる「ビッグプロジェクト」であり、研究活動は税金で支えられている。したがって、特に研究機関やプロジェクトの広報・アウトリーチ担当は、単に宇宙の魅力やプロジェクトによって得られる科学成果や獲得される技術のアピールだけではなく、一歩進んで納税者や未来の納税者とエンゲージし、サポートをもらえるようなアウトリーチ活動を求められる場合もある。そこで、どのターゲットに、どのような方法でアウトリーチするのがよいかを明らかにするため、天文学のサポーターを対象に行ったアンケート調査の結果を報告する。我々は、まずスクリーニング調査で、天文学や宇宙科学に対して税金によるサポートもしくは寄付すると答えた回答者を選び、その回答者を対象に本調査を行った。本調査では、宇宙に興味を持つようになったきっかけ、その時期、現在どのように宇宙に関する情報を得ているか、などを質問した。回答を集計した結果、宇宙に興味をもったきっかけで多かったのは、回答者全体では多い順に「テレビ番組」、「プラネタリウム、科学館などの展示」、と「夜空を見て」であった。しかし、若い層では、「プラネタリウム、科学館などの展示」がきっかけという回答のほうが「テレビ番組」との回答より多かった。宇宙に興味を持ち始めた時期は、小学生の頃という回答がどの世代でも多かった。一方、30歳代以上では、社会人になってからという回答者も多く（20%程度）いることがわかった。